

■ 東京都水道局環境計画 2010-2012

策定方針

1. 気候変動など地球規模の環境問題が深刻化する中、地球温暖化防止に重点を置き、CO₂排出量の削減に局を挙げて取り組む。
2. 水道の使用を通して、環境負荷低減に向けた行動に結び付けるよう、お客さまなど関係者の理解促進を図り、社会全体の環境負荷低減につなげていく。

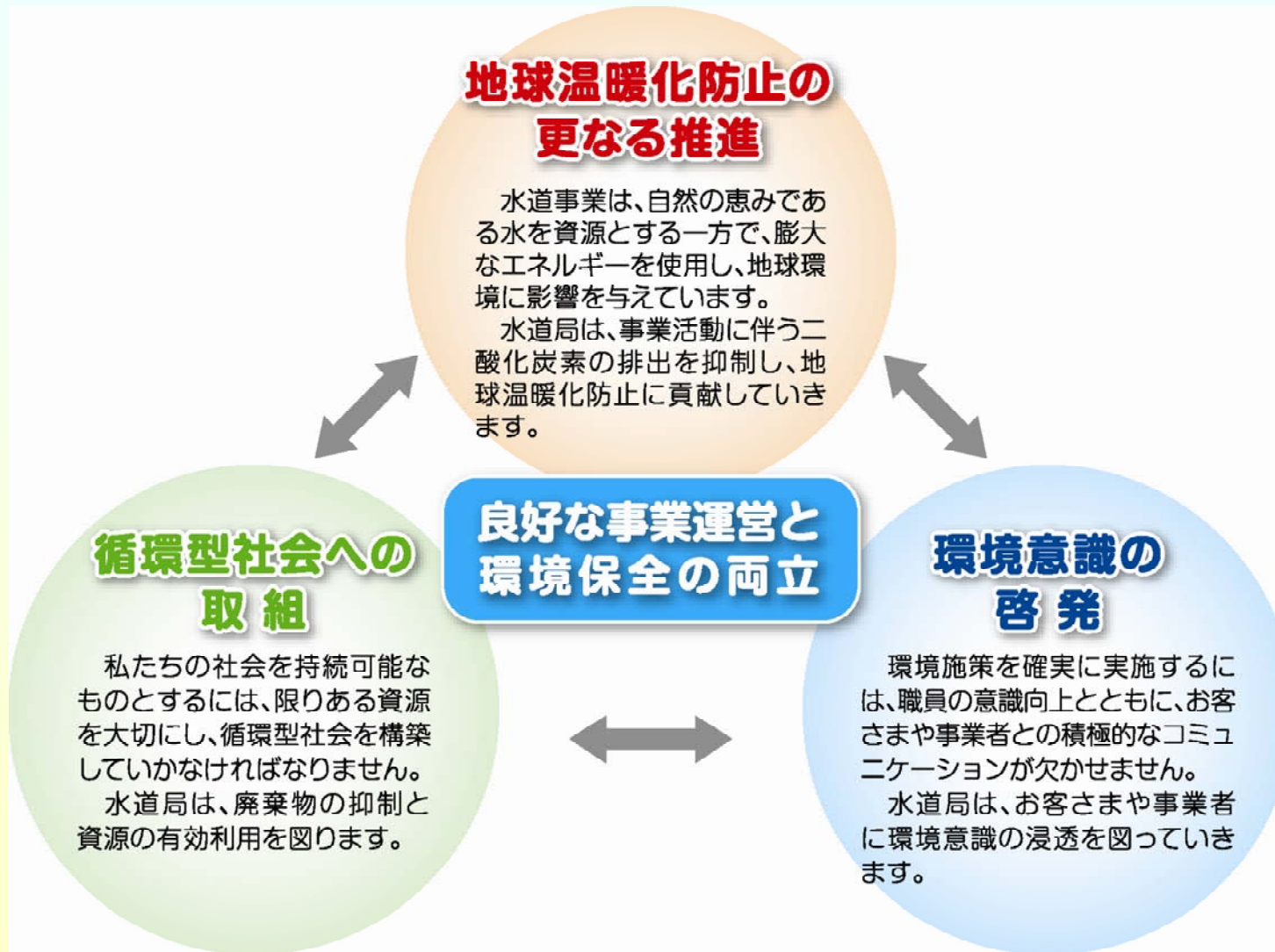
位置付け

「水道局環境計画(2007-2009)」の成果と近年の地球環境問題の深刻化を踏まえ、事業活動を通じた環境負荷の一層の低減に向けて、局として取り組む施策と目標を明らかにしたもの

計画期間

平成22年度から平成24年度までの3年間

■ 環境基本方針



■ 取組事項と目標(抜粋)

➤ 二酸化炭素総排出量の低減

二酸化炭素削減対策の実施によって、3年間で6,000トンの二酸化炭素排出抑制を図る。

➤ 再生可能エネルギーの有効利用

再生可能エネルギーによる発電規模を7,800キロワット以上にする。

➤ エネルギーの効率的な活用

ポンプ設備等の省エネ化やエネルギー効率に配慮した水運用など、エネルギーの効率的な利用を推進する。

➤ 直結給水の推進

直結給水率を67%にする。

➤ 水道水源林の保全管理

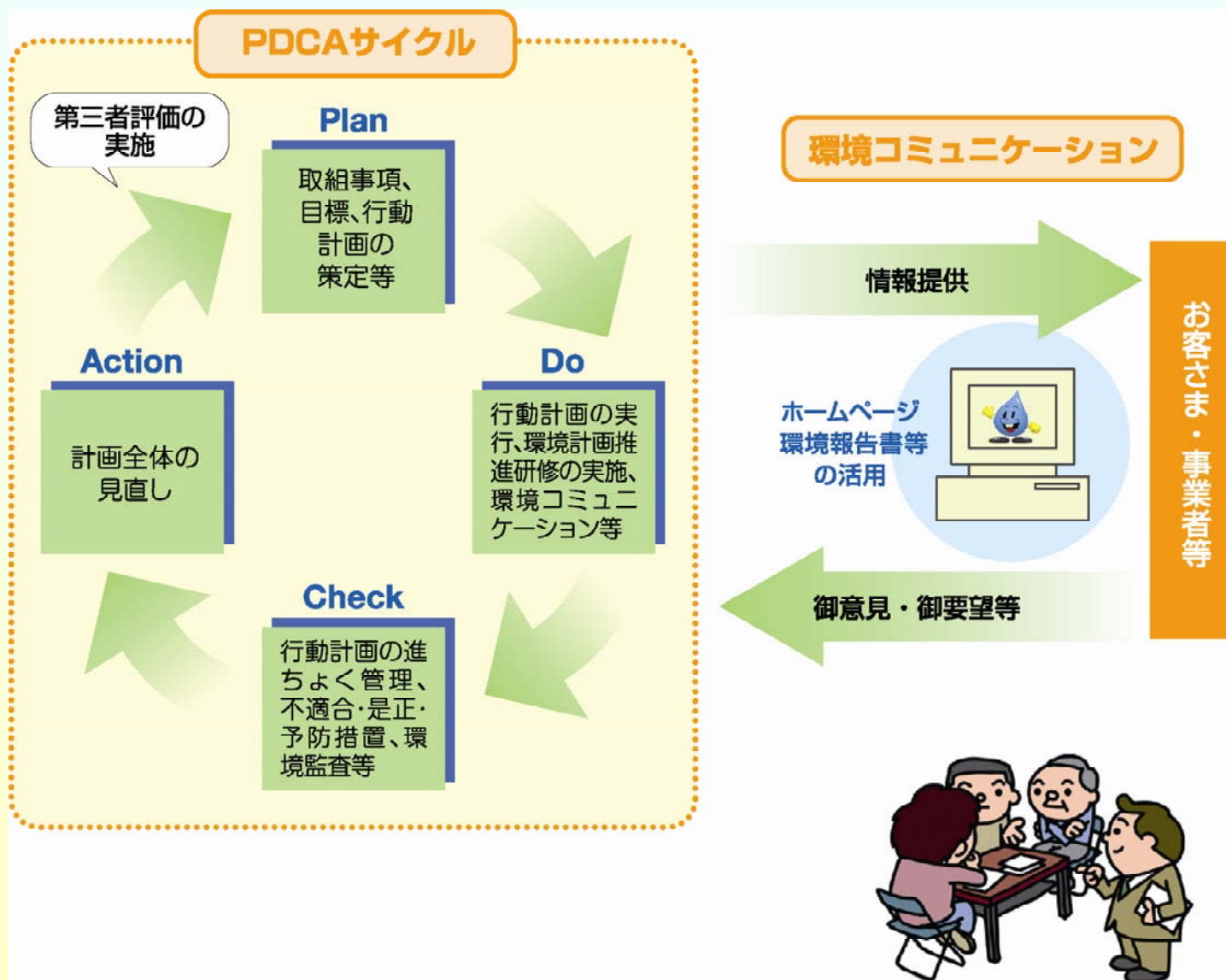
人工林において、森林機能の向上が図れる複層林※の面積を3年間で15ヘクタール増加させる。また、植栽後の除伐、枝打ちなどの保育作業を3年間で1,500ヘクタール実施する。

※複層林:世代の異なる植栽木から構成される森林

➤ お客さまとの環境コミュニケーションの向上

お客さまに対して、水道局の環境への取組についてわかりやすくPRしていく。

■ 環境計画の推進の仕組み



■ 環境情報の開示

環境報告書

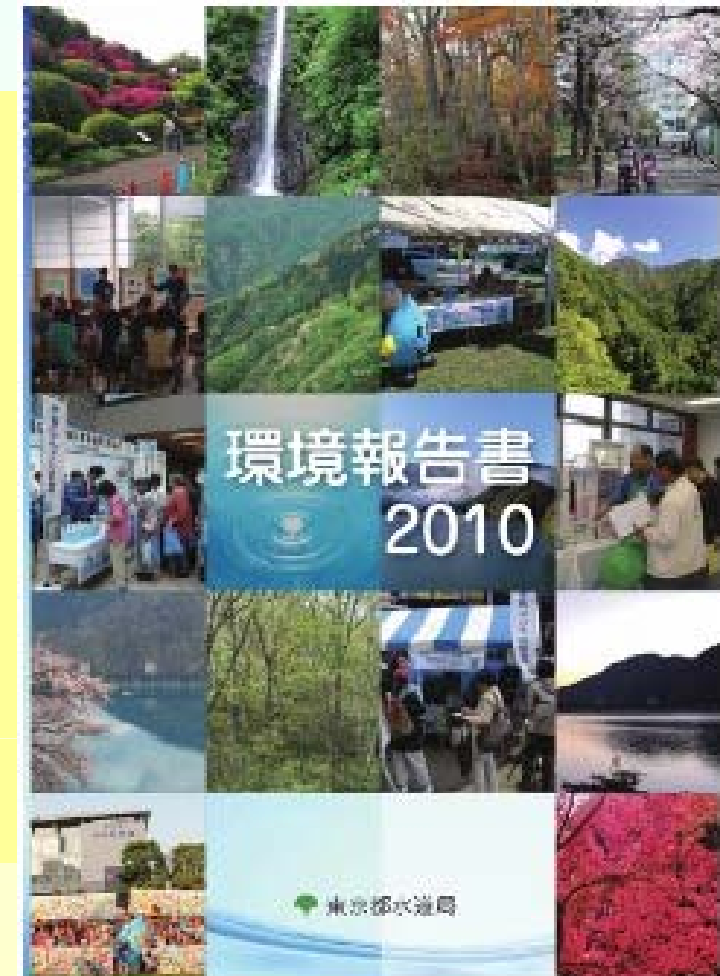
■ 平成12年度～

■ 環境コミュニケーションの推進

■ 読み手(ステークホルダー)

都民(水道ユーザー)、水道局職員及び
その家族

× 株主、× 投資家



■環境コミュニケーション活動

平成21年度実績

交流活動	頻度、人数等	内容等
水道キャラバン	1,130校、計82,808人	小学生（主に4年生）を対象に、訪問授業を実施し、小学生が水道事情や環境保全の重要性について理解を深める機会とする。
水道ふれあい月間	平成22年6月 計75,674人	毎年6月を「水道ふれあい月間」とし、各事業所ごとに作成した計画に基づき、お客さまとの積極的なコミュニケーションを図る。
水道出前講座	9回、計205人（営業所の水道キャラバン実施分を含む。）	自治体、地域団体、企業等の依頼により、訪問講座を実施する。
水道施設見学会	2期（夏、秋）、計754人	貯水池、浄水場などの主要施設で見学会を実施する。
浄水場の施設見学会	水道週間（6月1日から7日まで） 計1,801人	6月1日から6月6日まで（砧浄水場） 6月1日から6月7日まで（三園浄水場） 6月1日・3日・5日・6日・7日（小作浄水場） 6月4日から6月6日まで（東村山、金町、朝霞浄水場） 6月5日（長沢、三郷浄水場） 6月6日（境浄水場）
水道親子サポーター参加イベント	6回、計250人	「東村山浄水場高度浄水施設完成式」、「水の科学館プレオープンイベント」、「水道施設見学会（夏・秋）」及び「水道ものしり教室」により各種施設の見学会を実施する。「水道週間行事」ではお手伝いスタッフとして参加し、水道事業や水道水への理解を深める。
利根川水系上下流交流事業	2回（夏、秋）、計134人（群馬県の参加者を含む。）	利根川上流の水源地にて、利根川で結ばれた上流側の群馬県と下流側の東京都の人々などが交流し、水や水を育む森林の大切さについて相互の理解を深める。
多摩川水系上下流交流会	1回、36人	多摩川上流域の豊かな自然を守り慈しむ人々と中下流域で水を使用する人々との親睦と相互理解の場を提供する。
玉川上水ウォーキング	雨天により中止	今もなお役割を果たす江戸時代の優れた土木技術を紹介するとともに、水道水源施設の保護及び自然環境保全の意識啓発を図る。
東京都水の科学館	来館者117,062人	水の不思議さと大切さを、科学の視点から再認識できる体験型展示施設
東京都水道歴史館	来館者32,336人	水の大切さを、江戸時代から現在までの水道の歴史から学べる施設
奥多摩 水と緑のふれあい館	来館者207,433人	水源地である奥多摩の豊かな自然や文化、小河内ダム of 仕組み、水や緑の大切さを紹介する施設

■ 開示情報の決定プロセス

お客さまからの御意見、御要望を把握
→ 情報ニーズの把握

■ 水道モニターアンケート

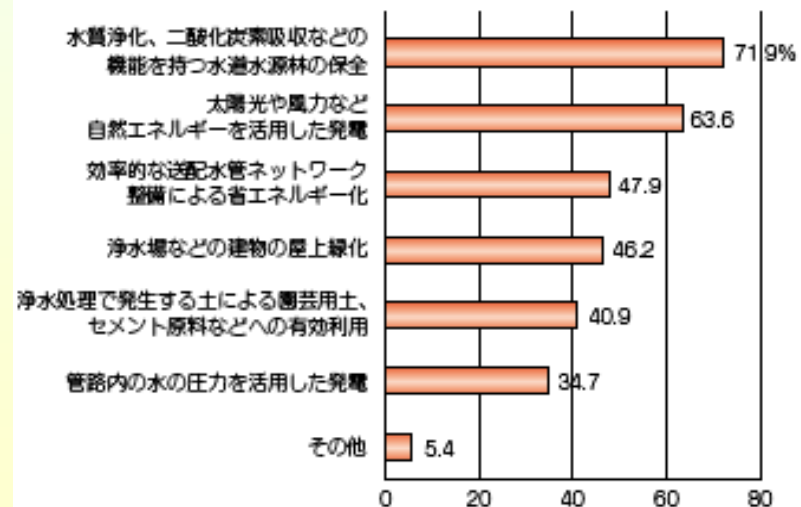
■ お客さま満足度調査

■ 環境NPOへのアンケート及びヒアリング

■ 環境コミュニケーション活動

平成 22 年度 第 2 回水道モニターアンケート結果

Q 今後、水道局にもっとも力を入れてほしいと思う環境政策は何ですか？
(平成 22 年度 第 2 回水道モニターアンケート結果から) (複数回答)



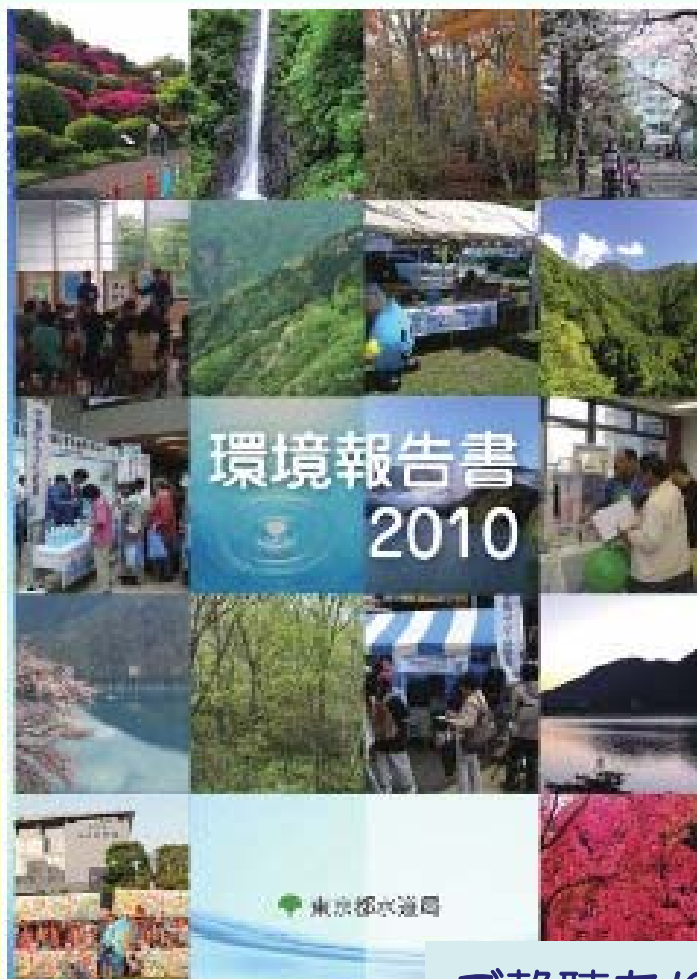
■環境NPOへのアンケート及びヒアリング

環境NPOとの双方向コミュニケーション

- 環境NPOの方々から、環境報告書の記載情報及び水道局の環境施策の取組状況について意見聴取。
- 情報ニーズの把握
- 「目的適合性」、「表現の忠実性」の実現

■ 環境への取組 (当局HPよりご覧いただけます)

環境報告書(2010年版)



環境計画 2010-2012パンフレット



ご静聴ありがとうございました。